南陽市に伝わる民話

# 白竜湖の琴の音

昔々、とんと昔の話だけど。

ここ置賜盆地の赤湯村（南陽市赤湯）ていう所があって、そこは毎日毎日、春から日照りが続いて、雨がひとっつも降んねがったど。

植えたものはみなしおれて、砂漠みたいになったど。田んぼはみな、干からびて、割れ目が出てしまったど。

(1)こんじゃ百姓だぢ

「困ったもんだ。困ったもんだ。」

毎日毎日、空ながめて、

「空ばっかりながめだってしょうね。(2)ほんじゃらば山の神様、それから水の神様さ雨乞いしんなね。」

と、毎日火たいで、みんなで雨乞いしたごんだど。(3)そんじぇもさっぱり雨降んねくて、お日様は、毎日朝昇って、テカテカ、テカテカ、夕方、(4)はいやって、

「あぁ、困った困った。」

その時、庄屋様が、これではみんな餓死してしまう。なんとかなんねもんかと考えた末に、(5)巫女様さ聞きにいくことにした。巫女様は、湖のそばの水神様のところさ行って、ご祈祷してけっちゃど。水神様のご祈祷から巫女様の口をとおして、

「湖の主じゃ、私は竜神。嫁が欲しい。村のうちから娘を選んで、三日のうちに嫁入りさせれば雨を降らせよう。」

(6)と、いうなだっけど。

それを聞いた庄屋様、

「あぁ、困ったことになった。なんとしたらいがんべ。」

そして村の衆をみんな集めて、相談したど。そしたら村の人は、

(7)「おらえの娘、竜神様の嫁になのやんだ。(8)けらんにぇ。」

「おらえんな娘、(9)みだぐねがらわがんね。」

「おらえんな体悪りがらわがんね。」

と、さっぱり決まんねごんだど。

「困った。三日もないのに、どうしたらいがんべ。」

考えあぐねったら、庄屋様の娘、陰のところで聞いてて、戸カラカラと開けて出てきて、

「村のためだもの。わたし、竜神様さ嫁にいく。」

と、いったんだど。

急なごどで、嫁入り道具買う暇もさっぱりねがったど。

それで、娘が愛していた、とっても大好きな琴をもって、白無垢で、お嫁にいくことになったど。

当日、雷の音とともにザワザワザワと風が吹いてきて、沼の水がうずをまいたかと思うと、すさまじい水柱、その中に二匹の竜が天に登っていったんだけど。

二匹のうちの一匹は、白い晴れ着姿だったけど。

まもなく雨が降りだして、赤湯の村は潤ったんだけど。

現在の白竜湖

それから、だれというともなく、湖は白い竜ということで、白竜湖と呼ぶようになったんだど。

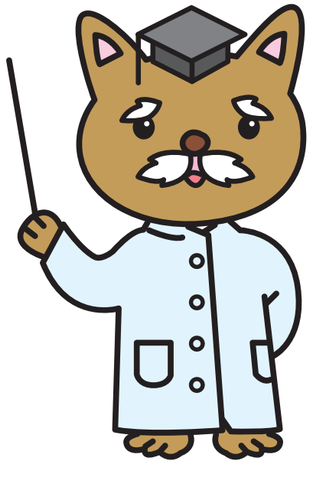
霧雨の降るころ、いつも湖の底からきれいな琴の音が聞こえてくるんだけど。

(10) とーびんと

引用【南陽市の民話(1)「夕鶴の里の民話」…夕鶴の里資料館】

## かいせつニャ

1. これでは
2. それならば
3. それでも
4. 西の空にしずみ
5. 神に仕える女性。神様の言葉を変わりに人々に告げるといわれている。
6. 言ったのだそうである
7. うちの
8. やることは出来ない
9. きれいでないのでだめだ
10. 結びの言葉

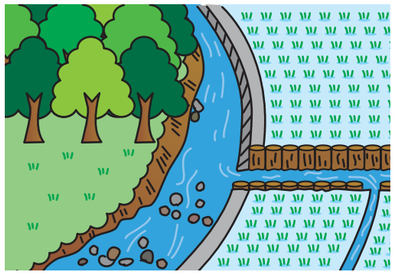


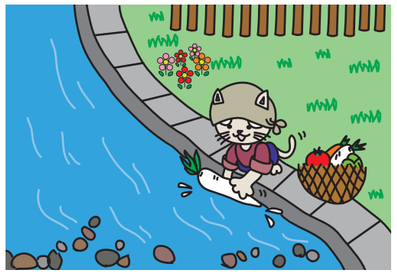
# 農業用水路のさまざまな働き

みんなが勉強している水路には、田んぼや畑に水をとどけるだけでなく、他にもたくさんの働きをしているんだ。そんないろいろな役割を見てみよう。

## 田んぼや畑などに、水をとどける

たくさんの用水路が、川から遠くはなれた田んぼにも、水を運んでくれる。だから、農家の人たちは安心しておいしいお米をたくさん作ることができるんだね。





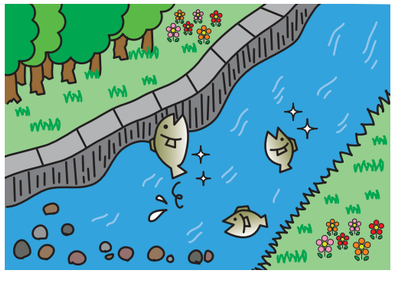
## くらしに役立つ

畑で収穫した野菜などを洗うのに農業用水を利用したり、火事のときに火を消すための防火用水、除雪した雪を流すなど、いろんな所でくらしに役立っているんだよ。

## 自然を守る

農地で使われた水は、川や土の中にもどって、下流の人たちが使っている。そんな水の循環のおかげで、みんなが地下水を使うことができるんだ。

また、水路や田んぼは、たくさんの生き物や植物のすみかになっているんだよ。



## 水と親しめる場や、お祭りの場になる

ため池などでは、水と親しめるよう、ボートを浮かべたり、魚を釣ったり、水辺を楽しむことができる場所がたくさんあるんだ。また、水の神様のお祭りなど昔から行われてきた祭りが今でもいろんな所に残っているよ。